

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	病院出産を選択する女性が妊娠期から地域開業助産師と繋がることによる産後うつ予防の効果				
研究組織	代表者	所属・職名	看護学部・助教	氏名	高木 静
	研究分担者	所属・職名	看護学部・教授	氏名	太田 尚子
		所属・職名	看護学部・教授	氏名	藤田 景子
		所属・職名	看護学部・准教授	氏名	中川 有加
		所属・職名	看護学部・准教授	氏名	永谷 実穂
		所属・職名	看護学部・講師	氏名	福島 恭子
		所属・職名	看護学部・助教	氏名	大和田 裕美
	発表者	所属・職名	看護学部・助教	氏名	大和田 裕美

講演題目	妊娠期から地域開業助産師と繋がるための交流会「Go To 産婆」の実施とその評価
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>【研究の目的】 近年、「妊娠期からの切れ目ない支援」をキーワードに妊娠・出産包括支援事業が実施されている。その中核として産後ケア事業があり、静岡市内では多くの地域開業助産師が参画している。しかし、わが国における出産の99%は病院または診療所で行われており、妊娠期から育児期まで女性が地域開業助産師による継続的なケアを受けることのできる体制づくりが課題である。そこで、妊娠期にある女性が地域開業助産師と繋がり継続的なケアを受けることによる効果を明らかにするために、静岡市助産師会とともに交流会「Go To 産婆」（以下交流会）を企画・実施した。本稿では、その実際と評価について報告する。</p> <p>【成果】 令和4年10月から令和5年1月まで、静岡市内の助産所や幼稚園、子育てサロンを会場として合計8回の交流会を実施した。交流会のファシリテーターは静岡市助産師会会員である地域開業助産師がつとめ、参加者が助産師と自由に語り合ったり、自然な出産や家族で迎える出産、子育て期の防災などのテーマについて話しあったりした。妻が妊娠期にある男性や妊娠していない女性の参加もみられた。</p> <p>参加者からは、「漠然とした不安が解消された」、「子育ての大変さを受け止めてもらい心が軽くなった」、「コロナ禍で病院受診時も助産師と話す機会が少なかったが、ゆっくり話せてよかった」「妊娠、出産、産後とずっと助産師さんと繋がれることがすごく安心できるしうれしい」等の肯定的な意見が聞かれた。また、「助産所に興味はあったが、敷居が高かった」「ちょっと見学してみたかったので、ピッタリだった」「産後ケアでぜひお世話になりたい」との意見もあった。これらのことから、本交流会により、分娩場所にかかわらず、女性が気軽に助産師と交流する機会を創出することができたと評価した。</p> <p>【今後の展望】 本研究では、交流会に参加した女性の出産後までを追跡することができなかった。今後は、交流会に参加した女性を追跡し、妊娠期に繋がった地域開業助産師から育児期まで継続的なケアを受けることが産後うつ予防や育児不安の軽減にどのような影響を与えているのかを検討していきたい。</p>